

2024年5月19日（日）

古代史特設会場

1. 自由論題報告 9:00-10:40

会場：研究講義棟（未定）

◎古代史は自由論題報告・小シンポ1・小シンポ2を一つの会場で行いません。

- 1) 09:00～09:45 大野普希（京都大学） 司会：周藤芳幸（名古屋大学）  
歴史叙述としてのパウサニアス『ギリシア案内記』—イオニア諸都市に関するヘロドトスの記述との比較を中心に
- 2) 09:55～10:40 橋本 資久（文部科学省） 司会：栗原麻子（大阪大学）  
相互顕彰としての対評議会授冠

小シンポジウム1 10:45-13:35

「ペルシア戦争の受容—古代から現代まで」

趣旨説明・司会 師尾晶子（千葉商科大学）

第1報告 酒嶋恭平（京都府立大学）

「ヘレニズム時代のペルシア戦争の記憶—儀礼、自由、異民族—」

第2報告 長谷川岳男（東洋大学）

「ローマ帝国下におけるペルシア戦争」(仮)

第3報告 村田光司（筑波大学）

「ビザンツ知識人たちのペルシア戦争」(仮)

第4報告 福田耕佑（大阪大学）

「近現代ギリシアにおける東方と文学作品におけるペルシヤ表象」(仮)

コメンテーター

1. 守川知子（東京大学）
2. 曾田長人（東洋大学）

昼休み： 13:35-14:30

小シンポジウム2 14:30-17:30

「古代ローマ世界における農業と社会：新しい時代の多分野共同研究に向けて」

オーガナイザー：大清水裕（滋賀大学）

司会：佐藤育子（日本女子大学）

第1報告 大清水裕（滋賀大学）

「アウグストゥス時代の北アフリカにおけるローマ人入植者と農業」

第2報告 宮坂渉（筑波大学）

「後2世紀属州アフリカの皇帝所領における農業と法：ローマ法文との比較」

第3報告 瀧本みわ（武蔵大学）

「古代末期の北アフリカの大所領と農業：図像学的見地から」

コメンテーター：池口守（久留米大学）／渡部展也（中部大学）／赤司千恵（帝京大学）

**小シンポジウム 14:00-17:30(古代史関係の小シンポジウム1・2を除く)**

※古代史関係はすべて同一会場で独自の時間割で行ないます

※以下のプログラムの報告タイトルについては変更の可能性があります。確定版は後日、改めて公開します。

小シンポジウム3

会場：研究講義棟（教室未定）

「リテロ・グラフィカシーから関係諸学を縫合する—問題提起と現状報告」

オーガナイザー：千葉敏之（東京外国語大学）

基調報告 千葉敏之

「モノグラムからリテロ・グラフィカシー（綴字型視覚記号論）へ」（仮）

第1報告 菊地重仁（東京大学）

「カロリング朝における綴字型視覚記号」（仮）

第2報告 草生久嗣（大阪公立大学）

「ビザンツにおける綴字型視覚記号」（仮）

第3報告 加藤 玄（日本女子大学）

「フランスにおける綴字型視覚記号」（仮）

第4報告 藤崎 衛（東京大学）

「教皇庁と綴字型視覚記号」（仮）

コメント

1. 高橋一樹（明治大学、日本中世花押論）
2. 金沢百枝（多摩美術大学、西洋美術史）

全体討議

小シンポジウム4

会場：研究講義棟（教室未定）

「帝国とネイションの語り直し」（仮）

オーガナイザー：篠原琢（東京外国語大学）

第1報告 篠原 琢

第2報告 青島陽子（北海道大学スラヴ・ユーラシア研究センター）

第3報告 稲垣春樹（青山学院大学）

第4報告 中澤達哉（早稲田大学文学部）

小シンポジウム5

会場：研究講義棟（教室未定）

「20 世紀の諸国家の統治と強制移動の論理」

オーガナイザー：山本明代（名古屋市立大学）

主旨説明 山本明代

第 1 報告 千葉芳広（金沢大学）

「フィリピン・アメリカ戦争にみる人種と感染症—強制移動との関係における考察」

第 2 報告 米岡大輔（中京大学）

「移民が難民に変わるとき—バルカン戦争期ハブスブルク治下ボスニアにおけるムスリム帰還問題」

第 3 報告 百瀬亮司（早稲田大学）

「バルカン戦争期におけるセルビア知識人の反アルバニア言説」

第 4 報告 柴田暖子（政策研究大学院大学）

「東ドイツとアフリカ難民—ナミビア独立と子ども難民受入れに関する一考察」

コメンテーター：長島怜央（東京成徳大学）、割田聖史（青山学院大学）